

岡山市子ども・子育て会議 平成27年度 第2回放課後児童クラブ部会（議事録／要約）
日時：平成28年2月5日（金） 午前10時～12時
場所：岡山市勤労者福祉会館4階 大会議室

開会

・成立確認

委員7人中5人出席にて、過半数の定足数を充足し成立を確認。

議事

・資料確認

・傍聴許可

その他「平成27年度における放課後児童健全育成事業の進捗状況」について

部会長 議事の都合上、その他の「平成27年度における放課後児童健全育成事業の進捗状況」を委員に聞いてもらい議事に入ろうと思う。

事務局 資料（参考資料）を説明

委員 資料のうち最初のページの中ほどで、「小学校内で実施するクラブ数」は施設数で表示されているが、このうち放課後子ども教室を実施している数は小学校数となっている。したがって、児童クラブの施設数には名前を書くのがよい。両方とも数は幾つかという比較のためだが、意味が伝わりにくい。

事務局 児童クラブ144施設中、放課後子ども教室と連携している施設は51施設あった。

表示方法については今後考慮する。

部会長 放課後子ども教室と放課後児童クラブとの連携というのが重要だが、この29か所の取り組み実態、課題についての紹介を。

事務局 平成27年5月1日の時点では29の児童クラブが小学校の放課後子ども教室に参加している。連携ができていないところの状況としては市の中心部の地域では、以前児童クラブがまだ高学年の受け入れを開始していない時期に、子ども教室で高学年の受け入れを行い、児童クラブが低学年の受け入れを行うという役割分担をしていた。それが現在も継続しているところがある。

また、連携はできていたが、児童クラブの子どもが比較的子ども教室に参加する日数が多くなったため、児童クラブへ行かなくなった事例もあると聞いている。

部会長 児童クラブの実態を見ると前年度から非常に好転している様子が、数字的には伺えるが、利用者の声というのは何かデータとしてないのか。

事務局 今年から岡山市が導入したアドバイザーが各児童クラブを訪問した際に、児童の受け入れ状況を確認しながら、保護者のどのような声が聞こえるかというようなところも含めて、話を聞いて回っている。

部会長 実態を把握することは大切だが、利用者の声も何かの形で参考にしてもらいたい。

事務局 子どもや保護者の意見を取り入れた評価を行うため、今回の調査項目に入れている。子どもや保護者の意見を取り入れた評価を行っている児童クラブか所数は施設数でいうと全体のまだ過半数以下となっており、この結果を児童クラブに案内し、事務局としても、それをどのように生かしていくか、今後検討していく。

委員 放課後の子どもたちも大事だが、毎日、学習をする子どもたちの学習の場を最優先にすべきことではないか。そして、今、学校施設の空き教室を児童クラブに変更して使用している学校では、児童数の増加により、普通教室の確保をしなければならない事態のところもある。そのようなケースは児童クラブのために、行政が民間施設をしっかりと手配して、困らないような形をとらなければ、学校現場が大変困ることになる。

もう一件、放課後子ども教室について、今どこが推進するのか。どこに

対して、より増やすような形で声かけをしているのか。

事務局 やり方としては、過去に放課後子ども教室をしていた小学校に声をかけていく。

最盛期には、47小学校区で実施していたが、現在は33小学校区で実施している。今後は、ここ10年間ぐらいの間に子ども教室をやめたところ、今まで子ども教室をされたことがない小学校にも、声かけをしていこうと思っている。

放課後子ども教室は教育委員会で平成19年度から始まっており、教育委員会の補助執行ということで、教育長の名前で岡山っ子育成局が仕事をやっている。児童クラブ施設の件だが、児童クラブ施設の確保が必要な小学校は基本的には教室もない。学校、地域、児童クラブ、教育委員会等と調整する中、小学校の耐震化工事もある。学校も我々の苦労も理解してくれていて、最初は暫定的にタイムシェアを児童クラブにしてくれているところもある。学校には迷惑をかけており、無理なお願いもしている。

委員 学校によっては、厳しい状況にあって、一律に協力することがまことに難しいようなところもあると聞いているが、本当に入学する子どもたちが入る教室がないというところについては、最優先で協力をしてもらいたい。

放課後子ども教室も本当にあればいいと誰もが思っているが、今、学校現場になかなかそのゆとりがない。そんな中で、放課後子ども教室をさらに増やしてくださいというのは難しいこと。例えば、現在、日曜日や放課後に団体が子どもたちを集めて、今、実際にやっていることを、子ども教室の一環として認めてくれれば、実施箇所は増える。学校現場にどんどんおろしてこられると、学校現場は困って、とても受け入れできないということになる。

事務局 放課後子ども教室、児童クラブとの一体型、あるいは連携型でプランをつくるというのが国のほうから示されており、プランの策定は義務づけということで今回、行動計画の案を出している。無理のない範囲で声かけを行い、理解をもとめていきたい。

部会長 放課後子ども教室と児童クラブの事務局が一緒だという、メリットを遺憾なく発揮してもらって進めてもらいたい。

(1) 「放課後子ども総合プラン(案)」について

事務局 資料(議題1) を説明

部会長 前回は協議したが、大幅な修正はないようだが、いかがか。

委員 意義なし

部会長 これをもとに行動計画の策定につなげていただきたい。

(2) 「子ども・子育て支援に関するアンケート調査(案)」について

事務局 資料(議題2) を説明

部会長 「利用したくない理由」という項目とは、具体的にどんな項目が挙げられているのか。この利用したくない理由というのは、どういう選択肢になっているのか。

事務局 前回の調査項目の内容としては、利用時間が合わない、利用料金が高い、ほかの施設があるというのが大きな質問項目となっていた。回答のうち「その他」が半分くらい占められていて、詳細は不明。

委員 単に理由として挙げられていることを分析して今後よい方向に行くにしても、この利用したくない理由のところをもう少し細かく挙げて、改善の余地があるところや実態を知ってほしい。

部会長 その他が多いということは、その選択肢に当てはまらない理由の人が多くということであり、自由記述で書いてあることが多いと思う。そこを見て、その中で多い自由記述の内容を選択肢として挙げる、というふうな対応をしてもらいたい。

事務局
部会長 検討させていただきたい。

岡山市でも居住区のブロックによっても意見が異なってくると思われるが、回答者さんのことについても聞いてあるのか。

事務局
部会長 放課後子ども教室が単独で行う調査ではなくて、無作為に抽出するということしか聞いていない。属性について考慮するかは未定。

事務局
部会長 名前は記入しないが、居住の地区というようなことも属性に入っていないのか。

事務局
部会長 属性については、アンケートの回答者、対象時の年齢と状況、児童との同居状況、主な養育者ということで、居住地については今後検討する部分と考えている。

部会長 岡山市も広く、多様なため、県南や県北などのブロックに分けた場合のニーズの違いの有無などは調べるべきではないか。全体からなかなか酌み取ることができにくいところを、手段や工夫により、正確にニーズが把握できるのではないか。

委 員 この見込みを調べるのは大切だと思う。希望対象学年の内容の中に、実態が把握できるような内容をもう少し入れたほうが、より役に立つのではないか。

事務局
委 員 参考にさせていただく。

委 員 土曜日の保育ニーズがどのくらいあるのかというのともあわせて、採っておくほうが、より資料としてはいいのではないか。

委 員 児童クラブとしては、国の方針そのものはいいと思うが、岡山市としての実態には全く合っていない。無理をして一体型にしようと感じられる。この施策のやり方を各児童クラブの実態をよく聞いてもらわなければ、この問題は尾を引くと思うが、市当局はどういう形でやろうとしているのか。簡単に説明を願いたい。

部会長 学校、児童クラブの現場の意見というのは、大切にしなければいけない。最初から連携ありきでの討論ではなく、子どもたちの生活をどうしたらいいのか、そこから議論していかないといけない。

事務局
委 員 こういう場も大切だが、市民の意見を聞くことも大切ではないか。

事務局
委 員 前回の部会でも話があったが、地域の仕事をされる方が、いろいろな所で取り合いになっており、連携ができていくという実態もあるが、できていないところについては、同じテーブルに着いて話し合いをする場を、どういう形で設けていく必要があるかというところは考えている。

委 員 学校の学校支援ボランティアも児童クラブの支援員も人材が足りない状態だが、人間のソースをどこから持ってくるかということを考えれば、学校支援ボランティア、コーディネーターの力をかりて、高齢化社会に向かって役立とうと思う有能な人材を発掘できるのではないか。

部会長 今の小学生の一番大事なところをフォローする人材を地域から出すという考えをしない限り、学校側や児童クラブに負荷をかけても、もう何も出てこない。新しい人間の人材の出し方を何か考えたほうが良いと思う。

部会長 支援から協働へという答申が出され、全国的にそうした流れの中で教育委員会も動き出そうとしている。児童クラブや放課後子ども教室、あるいは学校支援ボランティアだけの問題でなく、もう少し広い視野から見ていかなければいけない時期になっている。特に岡山市のように、子どもの少なくなっている地域もあれば、まだ非常に子どもの数が多いところもあり、そういう複雑な岡山市だからこそ、広い視野での検討が大切なのではないか。

午前11時36分 閉会